



目議第2009号
平成30年2月6日

様

目黒区議会議長
佐藤 昇

質問通告について

平成30年2月20日開会の第1回目黒区議会定例会における質問通告が下記のとおりありましたので通知します。

記

一般質問

質問者氏名 田島 けんじ
目安時間 50分

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（これ以降は文中「東京2020大会」に略す）に向けて伺う。

(1) 「東京2020大会」開催の成功に向けての機運醸成の事業について伺う。

ア 2017年第1回・2018年第2回が行われた目黒シティランについて総括と今後の方針について伺う。

イ 目黒区内に大使館があるケニアと「東京2020大会」に向けたホストタウンを締結し、第1回に続き第2回の日黒シティランにもケニアの留学生がゲストランナーとして出場し、大会を盛り上げていただいた。今後、ケニアのホストタウンとしての目黒区の対応について伺う。

ウ 大会開催に際して目黒区内の競技並びに事前の練習会場について、ホストタウンは区民にとって、競技参加選手と特別な関わり合いができ、応援するなど感動をいただき、大きな思い出となる場

合もある。目黒区として今後、ケニア以外の国とのホストタウン及び事前キャンプの誘致について伺う。

エ リオデジャネイロ2016大会のパブリックビューイング事業についての総括と、「東京2020大会」での対応について伺う。

- (2) 今後の「東京2020大会」開催までの目黒区としてのスケジュールについて伺う。
- 2 「東京2020大会」に向けて区内スポーツ施設の充実について伺う。
 - (1) 中央体育館の大改修について進捗状況を伺う。
 - (2) 区立学校の体育施設及び運動場などのスポーツ環境を整えるための、「東京2020大会」に向け、学校設備の充実について伺う。
- 3 3カ国・3区、目黒区・東城区・中浪区の中学生交流スポーツ大会について、総括と今後について伺う。
- 4 地域BWAシステム（広帯域移動無線アクセスシステムの略で、無線を用いた高速データ通信）について、地元自治体である目黒区との連携と今後の展開について伺う。

質問者氏名 いいじま 和代

目安時間 40分

「支え合う温かな目黒」をめざして、大きく2点6項目の質問をさせていただきます。

1 「いのちを救う防災対策」について

都議会公明党が、2016年12月に都知事に対し「女性視点の防災ブック」を提案し、女性スペシャリストによる編集会議を立ち上げ、女性視点に立ったコンセプトや掲載内容が検討されました。そして、女性の視点からの防災ブック「東京くらし防災」が作成され、3月に配布されます。そこで、「いのちを救う防災対策」について伺います。

- (1) 女性の視点からの防災ブック「東京くらし防災」が、今年3月に配布となりますが、目黒区における周知・配布・活用方法を伺います。
- (2) 障がい者・高齢者等の災害時要配慮者の命を守るためには、「避難行動要支援者名簿」だけではなく、災害時要配慮者の「個別支援計画」の作成が必要と考えますが、所見を伺います。

(3) 「避難行動要支援者名簿」に登録した方にカードを渡し、自宅に残る障がい者・高齢者等の災害時要配慮者の方が避難所に来なくとも、家族や代理人がカードを持って行けば、情報や食料等が受け取れるようにすることが必要と考えますが、所見を伺います。

(4) 目黒区の防災士による「目黒区防災協議会」の立ち上げ、地域の防災リーダーとして、避難所運営等において活躍できる体制を、早急に作ることを必要と考えますが、所見を伺います。

2 「社会参加と健康を考えたボランティア」について

平成25年第2回定例会本会議等で「介護支援ボランティア制度」について訴え、その結果「めぐろシニアいきいきポイント事業」として実現しました。めぐろシニアいきいきポイントは、65歳以上の方が、地域の社会貢献活動に参加することで、健康維持・生きがいづくりを行いながら、地域を活性化させ、いつまでも元気にいきいきと暮らしていくことを目的としたものです。対象施設で活動するとポイントが貯まり、地域商店街の活性化にも繋がるように「区内共通商品券」と交換できるというものです。目黒区の今後の高齢者のための、社会参加と健康を考えたボランティアの推進について伺います。

(1) 「めぐろシニアいきいきポイント事業」の現状と課題、また、さらなる推進方法についての考えを伺います。

(2) 東京都健康長寿医療センター研究所が2004年度より着手した、シニア読み聞かせボランティア「りぷりんと」プロジェクトが注目され、各区に広がっています。目黒区においても、認知症予防にもなる世代間交流ボランティアとして導入すべきと考えますが、所見を伺います。